

原稿執筆要項

1. 執筆内容

看護実践研究指導事業報告書の原稿には下記の各項目を含める。

1) 今年度の事業報告

以下の内容を必ず含める。

- ・テーマ、担当教員
- ・キーワード（3～5個程度）
- ・目的（本事業の必要性）
- ・本事業で実施したこと（実施方法・内容・結果）
 - *結果には、個別訪問研修、ワークショップ、報告会等、方法ごとの実績として、対象施設の種類・対象者の職種（・職位）別の数、修了証の交付数を含む
- ・参加看護職の意見
- ・教員の自己点検評価
- ・今後の課題、発展の方向性

*備考：報告書原稿の締め切り後の研修会開催等、今年度の報告書に活動実績を掲載できない場合、その内容は次年度の報告書原稿に記載してください。また、前年度の活動実績で前年度の報告書に掲載できなかった内容は本年度の報告書原稿に記載してください。

2) 今年度に終了するテーマの総括報告（上記1.とは別に必要）

以下の内容を必ず含め、6枚（A4）以内で作成する。

- ・テーマ、担当教員
- ・キーワード（3～5個程度）
- ・目的（本事業の必要性）
- ・実施方法・内容・結果（参加看護職数・面接者数等、数量的な実績を含む）
- ・成果（実践現場・看護職に与えた影響、看護職の研修としての有用性、本学の研究・教育活動に与えた影響など）
- ・実施にあたり困難な（困難だった）点、工夫したことなど

2. 倫理的配慮

報告書は、冊子刊行後、本学が運営管理するホームページや本学の教育研究活動の成果物を電子的形態で蓄積・管理している岐阜県立看護大学リポジトリなどを通じてインターネット上に公開する。なお、岐阜県立看護大学リポジトリは、本学ホームページのトップページ（広報・地域連携）にあるアイコン [リポジトリ・紀要・研究報告](#) からアクセスできる。

3. 執筆様式について

- ・オフセット印刷とするため、原稿の書き方は下記のとおりとする。
- 1) 書式はA4縦置き横書きで、ワードプロセッサを使用する。
- 2) 図・表を含め1段組みで1ページとする。但し、内容によっては、表のみをまとめて、資料として本文末に添付する形式も可能であるが、資料は必要最小限にする。
- 3) 余白は上20mm、下20mm、右25mm、左25mmとし、「標準の文字数を使う」を指定する。
- 4) ポイント数は、本文（見出しを含む）10ポイントとする。
- 5) フォントは、見出し番号“Ⅰ.”および“1.”：MSゴシック太字、見出し番号“1”：MSゴシック、“(1)”以下の見出し番号および見出し以外の本文：MS明朝とする。
- 6) 見出し番号は、Ⅰ. → 1. → 1)とし、これ以下は(1)もしくは①とする。なお、(1)の数字は半角とし、それ以外の数字、「.」、片括弧“)”および両括弧“()”はすべて全角とする。
- 7) 見出し番号以外の本文中にでてくる数字は、すべて半角とする。
- 8) 句読点は「、」「。」を使用する。
- 9) 文献の書き方は、本学紀要に準じる。
- 10) ページ番号は入れない。
- 11) アンダーライン、網掛けは使用不可とする（印刷したときの不鮮明さを防ぐため）。
- 12) 図・表は、印刷したときに鮮明に見えるかを配慮し、適切な表現に留意する。

2017年12月